

# 特別支援学級の編制標準の 改善を求める要請署名

## 【要請趣旨】

全国的に特別支援学級在籍者の児童生徒数が増え続け、2010年に14万5431人だった小中学校の特別支援学級在籍児童生徒数が、2020年には30万2473人と2.08倍となっています。一方、担当教員数は、4万7297人から7万5472人と1.60倍にとどまっています。また、在籍する児童生徒も、医療的ケアが必要な子ども、学年に沿った教科学習が可能な情緒障害の子ども、個別対応が常時必要な子ども等々、実態に大きな差があります。

学級編制に学年は配慮されません。小学校では1年生から6年生まで、中学校では1年生から3年生までの複数学年の子どもたちが在籍していても、8人以内は1学級です。発達や生活年齢、学年に応じた指導が必要であるにもかかわらず、十分な対応ができないのが現状です。

多様な課題をもつ子どもを1人で担任して、授業準備と家庭との連絡、それぞれの学年行事やクラスの授業への付き添いをおこなうなど、担当教員の負担は限界を超えています。しかし、1993年の第6次定数改善以来、特別支援学級の編制標準は1学級8人のまま変わっていません。

小学校の通常学級は1学級35人という定数改善が実現しました。特別支援学級も編制標準の改善が必要です。特別支援学級での教育を豊かに発展させるために、下記のことを要請します。

## 【要請事項】

1. 特別支援学級の編制標準を6人とすること。
2. 特別支援学級の学級編制においては、通常の複式学級同様に2学年以内で編制し、小学校で1年生が在籍する学級は少人数編制とすること。

氏 名	住 所 (「同上」「//」は使わないで下さい)
	都 道 府 県
	都 道 府 県
	都 道 府 県
	都 道 府 県
	都 道 府 県